

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< №155 2013.11.24 連絡先 402-1622 >

行政視察報告

住宅リフォーム助成制度②

埼玉県川越市では、「住宅改修補助金」として、平成12年度からこの制度を実施しています。改修工事に要した費用の5%、上限10万円を補助するという内容で初年度予算500万円が始まりました。その後予算額を700万、1000万と引き上げ、平成22年度には補助金額を上限8万円に引き下げたものの予算は1040万円と引き上げました。その後も予算額は増え、25年度には1800万円を計上しましたが7月1日に終了してしまい、1000万円増額しましたが合計2800万円の予算が10月末ではほぼ終了ということでした。川越市では、予算がなくなれば終了となっています。川越市には他に耐震改修補助金事業も行っており、この制度との併用もできます。



先週報告した高崎市に比べて川越市は、補助割合も金額も予算額も少ないけれど、まだ取り組んでいる自治体が少ない時期から先駆的に取り組み、予算も増やしながらずっと続けていることが素晴らしいと思いました。この制度が、市民に喜ばれ必要とされている事業であることに確信が持てました。

みち子のひとりごと 同窓会

講演は卒業生で作家の楊逸さん。日本語を一言も話せずに来日し、今、物書きの仕事をするようになった二十数年間の歩みという題でした。残念ながら話は十分聞けなかったのですが、面白そうなので本を買ってきたので早く読みたいと思っています。



近畿に住む出身大学の卒業生の集まり（講演と懇親会）が市内でありました。今まであまり参加したことがなかったのですが、お手伝いを兼ねて講演だけ参加しました。昭和15年卒業から平成6年卒業の人まで幅広い年齢層です。私は、バスで来られる方へ会場を知らせるため、始まるまでの1時間ほど案内板を持って最寄りのバス停に立ちました。少々恥ずかしくもありましたが、バスを降りる前からニコニコして、近づいて来られる方々に暖かい気持ちになりました。面識はなくても、同窓生ということで不思議な連帯感、安心感が生まれるものですね。

小水力発電...山梨県都留市

小水力発電には、川の流れを利用したもの、農業用水を利用したもの、上水道施設を利用したものなどがありますが、都留市で行っている川の流れを利用した小水力発電を見てきました。

1639年に農業や生活用水として3年間をかけて掘られた「家中川（かちゅうがわ）」は、水量が豊かでしかも富士のすそ野が尾を引く傾斜地のため流れが急です。そのため、水車の動力源として最適で、穀物の製粉や精米などに当時から多くの水車が設置されていました。

明治36年、谷村（やむら）電燈株式会社創立。38年に谷村発電所が完成し、県内で2番目に電気の供給が始まりました。大正12年谷村町が買収、町営として電気が供給されました。昭和17年東電に合併、28年には廃止、29年に取り壊されました。

このような歴史を経て、平成13年市民を中心とした「都留市水エネルギー研究会」が設立され、流量調査やイルミネーションの試験点灯等を行いました。16年市政50周年を記念し、水のまち都留市のシンボルとしてまた、期待される小水力発電の普及・啓発のために「元氣くん1号」が市民参加型で作られ18年から稼働しました。1号は木製の「下掛け水車」、2号は「上掛け水車」、3号は「らせん式水車」と現在3基が稼働しています。ここでつくられた電力は、市役所、エコハウス、植物栽培展示ハウス「城南倉庫」に供給され、電力の一部を賄っています。



元氣くん1号



元氣くん2号

肝臓の悪い方を捜しています

子どもの頃の予防接種、同じ注射器で何人もが受けた、こんな経験ありませんか？このことが原因で肝臓の病気になる危険があったにも関わらず、国は何の方策もとっていませんでした。推定被害者は全国で推定約45万人、ところが和歌山県の認定訴訟者はたった45名。「和歌山肝臓友の会（仮称）」設立がすすめられています。思い当たる方はまず、連絡を。

B型肝炎大阪弁護団
06-6647-0300

渡されたバトナーさよなら原発

原発の是非をめぐって
四半世紀にわたる巻町民のたたかい
波乱に満ちたドラマの映画化

11月28日（木）

県民文化会館小ホール

10:30～ 14:00～ 18:30～

前売 大人1000円（当日1500円）

松坂が前売り券を持っています
090-1702-7310までどうぞ

主催：「渡されたバトナーさよなら原発」
上映実行委員会